

2024年度
世 界 史
(問 題)

〈R06183418〉

注 意 事 項

- 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- マーク解答用紙記入上の注意
 - 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
 - マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 記述解答用紙記入上の注意
 - 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
- 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

人の移動は、常に世界史を動かす最も重要な要因の1つであったといつてよい。人類の起源自体がそのことを端的に示している。
(A)

電子通信が実用化されるまでは、人の移動と文化・経済・社会活動の広域化は一体となって展開されてきた。人の移動が国家の興亡に関わった事例も多い。
(B) (C)

社会関係の広域化を促す要因として、海は、障壁であると同時に人の長距離コミュニケーションを可能にする「道」でもあった。各地の港市国家は、海を媒介とした遠隔地の交易・交流を支えてきた。人の移動の連動が、地域史・世界史に多大な影響を及ぼすこともあった。
(D) (E)

人・モノ・情報の広域移動の担い手として、帝国は極めて大きな役割を果たしてきた。しかし、商人や海賊、さらには、時に特定の個人でさえも、重要なアクターであった。
(F) (G) (H)

その一方で、強制的な移住や難民をめぐる問題は、かねてより人類が抱える深刻な課題である。
(I) (J)

問1 下線部(A)に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 猿人は、簡単な剥片石器を用いて狩猟・採集生活を営み、アフリカを出て世界の諸地域に分散した。
- b. 原人は、磨製石器と火を使用して狩猟・採集生活を営み、アフリカを出て世界の諸地域に分散した。
- c. 旧人のなかからホモ=エレクトゥスが出現し、ヨーロッパに分散した後、西アジアにも広がった。
- d. アフリカ大陸に出現した新人は、骨角器を用いた生活を営み、世界の諸地域に住み着くようになった。

問2 下線部(B)に関連する次の記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 前2000年頃、北方から南下したギリシア系の人々が、前16世紀頃からミケーネ文明を築き始めた。
- b. インド西北部に侵入したインド=ヨーロッパ語系のアーリヤ人が先住民と混合する過程でヴァルナ制が生まれた。
- c. フェニキア人が作ったフェニキア文字は、ギリシアに伝わり、アルファベットの起源となった。
- d. 中継貿易に活躍したアラム人のアラム文字は、オリエント世界で用いられる多くの楔形文字の源流となった。

問3 下線部(C)に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. セム語系のシュメール人は、メソポタミアやシリアの都市国家を最初に統一して、広大な領域国家をつくった。
- b. 鉄製の武器を使用したインド=ヨーロッパ語系のカッシート人は、前17世紀半ば頃、メソポタミアに遠征してバビロン第1王朝を滅ぼした。
- c. アムル人は、ザグロス山脈方面から南メソポタミアに侵入して、バビロン第1王朝滅亡後のバビロニアを支配した。
- d. 13世紀、バトゥは、モンゴル軍を率いてキエフ公国を滅ぼし、南ロシアにキプチャク=ハン国を建国した。

問4 下線部(D)に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. デカン高原一帯を支配したサータヴァーハナ朝は、ローマや東南アジア方面との交易を通じて栄えた。
- b. 2世紀末までにベトナム中部に扶南、ベトナム南部からカンボジア南部にかけてのメコン川下流域にチャンパーが建国された。
- c. ジャワ島北部に存在したアチェ王国は、ポルトガルによってマラッカが占領されたのち、イスラーム教徒の貿易拠点の1つとなった。
- d. 琉球は、薩摩の島津氏の攻撃を受けてその支配下に入り、明との冊封・朝貢関係を解消した。

問5 下線部（E）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ローマ帝国の北方一帯にいたゲルマン人は、4世紀後半に、東進してきたフン人におされて相次いで移動を開始した。
- b. スラヴ人は、6世紀になると、大移動前にゲルマン人が住んでいたビザンツ帝国北側の広大な地域に広がった。
- c. アルタイ語系のマジャール人は、6世紀に突厥に圧迫されて西に進み、パンノニア平原を本拠に、しばしば東ローマ帝国や西ヨーロッパに進出した。
- d. 840年、契丹の攻撃を受けウイグルが滅び住民が四散したことにより、別のトルコ系集団は圧迫されて西方へ移動した。

問6 下線部（F）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. アルサケスがカスピ海東南部に建国したパルティアは、前2世紀半ばにメソポタミアを併合し、東西交易を通じて繁栄した。
- b. 前漢の光武帝はタリム盆地を匈奴から奪って、敦煌など4郡を置き、シルクロードの東半分を支配した。
- c. クシャーン人が南インドに建国したクシャーナ朝で開花したガンダーラ美術は、東西交易路を通じて大乘仏教とともに中央アジアから東アジアに広がった。
- d. ササン朝は、6世紀のホスロー1世の時代に、エフタルと結んで突厥の勢力を滅ぼし、中国へと達する交易路を支配した。

問7 下線部（G）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. サマルカンドなどのオアシス都市を形成したソグド人は、内陸アジアや中国領内にも進出して、ユーラシアの東西を結ぶ交易ネットワークを構築した。
- b. アッバース朝の保護のもと、バグダードを拠点に、カーリミー商人と呼ばれるムスリム商人のグループが、インド商人とイタリア商人を仲介する東西交易に活躍した。
- c. 唐の隆盛のもとで、中国商人が南シナ海での西方との交易にダウ船を駆使して直接参加するようになった。
- d. 徳川家光が開始した朱印船貿易のもとで、日本の商人が海外交易に乗り出し、東南アジアの各地に日本町が生まれた。

問8 下線部（H）に関連する次の記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 「海の民」が東地中海一帯で破壊と略奪を行ったのと同じ頃、ミケーネ文明の諸王国が滅亡し、その後ギリシアは暗黒時代（初期鉄器時代）にはいった。
- b. ヨーロッパ各地で海賊行為を展開した北方系ゲルマン人は、ヴァイキングの名で知られている。
- c. エリザベス1世の時代、ドレークは、政府の許可を得ることなく、私拿捕船（私掠船）を用いてスペインの植民地や輸送船を攻撃し、略奪を行った。
- d. 16世紀、後期倭寇と呼ばれる武装した私貿易集団が、明に対抗して密貿易や略奪を行った。

問9 下線部（I）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 法顕は、東晋から陸路でインドにおもむいて仏教をおさめ、帰国後に旅行記『大唐西域記』を著した。
- b. 義浄は、インドへの往復の途中シュリーヴィジャヤ王国に滞在した。
- c. 阿倍仲麻呂は、唐に留学して安南節度使などの高官に登用されたのち、日本に帰国した。
- d. アリューシャン列島西部に漂着した大黒屋光太夫は、ピョートル1世に拝謁した。

問10 下線部（J）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ヘブライ人の王国が南北に分裂したのち、南のイスラエル王国は新バビロニアに滅ぼされ、多くの人々がバビロンに連れ去られた。
- b. 1860年のアメリカ合衆国大統領選挙では、共和党が分裂した結果、奴隷制反対を唱える民主党のリンカンが当選した。
- c. 南北統一後のベトナムでは、南部の社会主義化をめぐる混乱やカンボジアへの介入のため経済が低迷し、南部から船で脱出する人々が難民となった。
- d. 2011年にシリアで内戦が発生し、アサド政権が崩壊したことによって多数の難民が生まれるとともに、国境を越える武装勢力が台頭した。

Ⅱ 次の文章を読み、問1～9について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

世界史は、様々な争いにより構成されているように見える。しかし、争ったままでは人間の社会は立ちゆかない。争いのあとには、争いを教訓として、様々な法や制度が生まれる。これもまた、世界史を形作る重要な要素であり、同時に、私たちの生きる現代社会に受け継がれているものでもある。

例えば、民主政は、古代ギリシア、特にアテネにその源流を持つ。それが古代ローマを経由し、現代の制度に影響を与えている。

革命という大きな動乱が、新たな制度につながることもある。イギリスにおけるピューリタン革命期、およびそれ以後の動きは、動乱後の社会において法や権力がどのように安定していくのかを示す一例といえる。これとは逆に、新たな思想的潮流の誕生が、革命に力を与えることもある。自然法思想や啓蒙思想の誕生が、アメリカ独立革命やフランス革命につながったことはその一例といえよう。

法によって社会変革がうながされることもある。1820年代から1840年代にかけてのイギリス、あるいはニューデール期のアメリカで、様々な法律の制定や廃止が行われたのも、それぞれが目指すビジョンに向けた、法による社会変革の試みであったといえよう。

イスラーム社会においても、統治者の変化が法の変化につながることもある。8世紀に生じたウマイヤ朝からアッバース朝への転換は、好例といえる。また、一口にイスラーム社会といっても、その国々により法の定着度は様々である。19世紀のオスマン帝国における動きは、法が社会に定着する条件とは何かを考える素材となる。

(H) 法を作ることにより、社会に負の影響が及ぶこともある。1933年にドイツで成立した全権委任法は、法と権力の関係について、世界史上無視しえない負の影響を持ったものである。

問1 下線部（A）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ソロンにより、財産額にかかわらず、市民の参政権が定められた。
- b. クレイステネスにより、地縁に基づく10部族制から、血縁に基づく4部族制に移行した。
- c. 市民たちが僭主になるおそれのある人物の名前を投票して一定の票数に達すると、国内の施設に幽閉する陶片追放の制度が存在した。
- d. アテネにおける裁判は、抽選で選ばれた市民による投票で行われた。

問2 下線部（B）について、古代ローマの政治制度の変化を年代順に古いものから正しく並べたものを1つ選べ。

- ① リキニウス・セクステウス法により、コンスル（執政官）のうち1人は平民から選ばれるようになった。
- ② ホルテンシウス法により、平民会の決議が元老院の認可なしに全ローマ人の国法となるようになった。
- ③ 元老院やコンスル（執政官）の決定に拒否権を行使できる平民出身の護民官が設けられた。
- ④ 慣習法を成文化した十二表法が制定された。

- a. ③→④→①→②
- b. ③→①→②→④
- c. ④→③→②→①
- d. ④→③→①→②

問3 下線部（C）について、クロムウェルの死後におけるイギリス政治の動きに関する出来事を年代順に古いものから正しく並べたものを1つ選べ。

- ① 権利の章典の制定
- ② 審査法の制定
- ③ チャールズ2世の国王即位
- ④ ウォルポールの首相就任

- a. ④→②→①→③
- b. ④→③→②→①
- c. ③→②→①→④
- d. ③→①→②→④

問4 下線部（D）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. グロティウスは、自然法思想を国家間の関係に適用し、国際法の祖と呼ばれる。
- b. ホッブズは、自然状態を「万人の万人に対する闘い」ととらえ、国家主権の絶対性を否定した。
- c. ロックは、社会契約の観点から、王権神授説を擁護した。
- d. モンテスキューは、イギリスの議会憲政を否定的に評価し、権力の分立を擁護した。

問5 下線部（E）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1824年に撤廃された団結禁止法は、政府の許可を得ない集会を広く禁止する内容の法律であった。
- b. 1832年の選挙法改正は、25歳以上のすべての男性に選挙権を与えるものであった。
- c. 1833年に制定された工場法は、工場に対する国家の監督権を認めることを内容に含む法律であった。
- d. 1849年に廃止された航海法は、イギリスとその植民地への輸入品の輸送権限を、イギリスとオランダの船にのみ認めることを定める法律であった。

問6 下線部（F）について、世界恐慌からニューディール期にかけての出来事を年代順に古いものから正しく並べたものを1つ選べ。

- ① フーヴァー＝モラトリアムの実施
- ② 全国産業復興法の制定
- ③ ワグナー法の制定
- ④ 産業別組織会議の成立

- a. ①→②→③→④
- b. ①→③→④→②
- c. ②→③→④→①
- d. ②→①→④→③

問7 下線部（G）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 新たにイスラームに改宗した者が政府の要職につくことは不可能であった。
- b. アラブ人でなくても、イスラーム教徒であれば人頭税が課せられないこととなった。
- c. イスラーム教徒であるアラブ人が征服地に土地をもっている場合、地租は免除された。
- d. コーランとハディースを中心とするイスラーム法は、個人の儀礼のみを規律していた。

問8 下線部（H）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. アブデュルメジト1世の進めたタンジマートは、近代化から距離をとり、伝統的なイスラーム国家への回帰を目指した。
- b. ミドハト＝パシャの起草した憲法（いわゆるミドハト憲法）は伝統的なイスラーム的価値観に基づく憲法であった。
- c. アブデュルハミト2世は、ロシア＝トルコ戦争を口実に、ミドハト憲法を停止した。
- d. ミドハト憲法は、ロシア＝トルコ戦争の最中に廃止された。

問9 下線部（I）について、1933年の全権委任法の説明として最も適切なものを1つ選べ。

- a. 大統領の権限を首相に委譲した。
- b. 議会の立法権を政府に移した。
- c. ナチ党以外の政党を法的に禁止した。
- d. ユダヤ人の市民的自由を制限した。

Ⅲ 次の文章を読み、問1～8について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。問9の解答については、記述解答用紙の所定欄に記入せよ。

2022年にイギリス国王となったチャールズ3世が初めての外遊先としてフランスを選んでいたほど、英仏関係の歴史は深くて古い。両国の関係は、ノルマン人の一派が西フランク王国と封建関係を結んで建国したノルマンディー公国のウィリアムが、1066年にイングランドを征服し、イングランド国王ウィリアム1世としてノルマン朝を開いたことによって始まった。その後、ノルマン王家と婚姻関係を結んだアンジュー伯アンリが1154年 (B) 朝を創始した。イングランド国王ヘンリ2世となった彼は、その後フランス西半分を領有することになった。

フランスの (C) 朝のもとでは、国王の王権が弱く、大諸侯の力が強かった。しかし、12世紀から14世紀にかけて、フランス国王はイングランドとの戦いによって、イングランドに支配されていたフランス国内領土の大半を奪回した。また、別のフランス国王はキリスト教異端のアルビジョワ派を征服したことによって南フランスを獲得し、領土を拡大させた。さらにフィリップ4世は、ローマ教会との争いを通じて権力を集中させた。しかしその後、 (C) 朝が断絶 (E)

したため (F) 朝がたつと、イングランド国王がフランス王位継承権を主張し、こうして (B) 家と (F) 家の間でフランス王位継承戦争が起こった。この戦争では、フランスの (G) 公がイングランド国王と組んでフランス国王と対峙するなど、フランス国内の政治勢力間で様々な思惑が錯綜した。戦乱は長期にわたったことから、百年戦争とよばれ、英仏社会において政治・社会・経済にわたって大きな影響を残した。

このように、イングランド征服から百年戦争終結までの三百余年の間は戦乱が続いたが、その一方で中世の西ヨーロッパには様々な文化・芸術が花開いた。

問1 下線部 (A) に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ヘースティングズの戦いではアルフレッド大王を破って、イングランドを征服した。
- b. フランス王位も継承し、その領土はイングランド・フランスにまたがった。
- c. アングロ＝サクソン支配層の支持を取りつけ、王権の強い統治制度の基礎をつくった。
- d. フランスの行財政制度を導入して、中央集権的な統治の基礎をつくった。

問2 空欄 (B) ・ (C) ・ (F) について、それぞれあてはまるものを組み合わせたものの中から適切なものを1つ選べ。

- ① カペー
- ② プランタジネット
- ③ ヴァロワ

- a. ①－②－③
- b. ①－③－②
- c. ②－①－③
- d. ②－③－①
- e. ③－①－②
- f. ③－②－①

問3 下線部 (D) の説明にあてはまるフランス国王とイングランド国王について、それぞれのあだ名の組み合わせとして適切なものを1つ選べ。

- ① 「聖王」
- ② 「尊厳王」
- ③ 「欠地王」
- ④ 「征服王」

- a. フランス国王：①－イングランド国王：③
- b. フランス国王：①－イングランド国王：④
- c. フランス国王：②－イングランド国王：③
- d. フランス国王：②－イングランド国王：④

問4 下線部 (E) のフィリップ4世に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 彼は、聖職者への課税をめぐるローマ教皇インノケンティウス3世と争い、その教皇を捕らえた。
- b. 国内世論を味方につけるために彼が開催した三部会は、革命まで継続して開かれた。
- c. 彼の子シャルル5世の退位の後、王位継承者が不在となった。
- d. 彼の娘イザベルがイングランド国王と結婚したことにより、イザベルの子エドワード3世がフランス王位継承権を主張した。

問5 空欄 (G) にあてはまるものを次の中から1つ選べ

- a. トゥールーズ
- b. パリ
- c. ブルゴーニュ
- d. プルターニュ

問6 下線部 (H) に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 戦争初期には、イングランド軍は長弓兵が強く、騎士と弩を主力とするフランス軍に対して優勢だった。
- b. エドワード黒太子は1346年のポワティエの戦いで勝利した。
- c. ジャンヌ＝ダルクは、1429年にオルレアンを解放し、その地でシャルル7世はフランス国王として正式に戴冠した。
- d. ボルドーを除くフランス全土からイングランド軍を追い出し、フランス側が勝利をおさめた。

問7 下線部 (H) に関連する次の説明文を読み、空欄 ア にあてはまるものを1つ選べ。

フランス国王は毛織物産地として重要な ア を直接支配下におこうとしたが、羊毛を輸出して利益をあげていたイングランド国王が阻止しようとした。

- a. ギエンヌ地方
- b. シャンパーニュ地方
- c. ノルマンディー地方
- d. フランドル地方

問8 下線部 (I) に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 建築では、壁を薄くする技術進歩により美しいステンドグラスを備えたゴシック様式が現れ、ピサ大聖堂はその代表である。
- b. 騎士道物語は、騎士の活躍について口語で表現された。
- c. 中世の主要大学に置かれた専門3学部のうち、法学で有名だったパリ大学を模範にオクスフォード大学が創設された。
- d. ゲルマン人の伝説「アーサー王物語」には聖杯伝説などが盛り込まれている。

問9 下線部 (H) に関連して、百年戦争の結果として生じたフランスの政治構造の変化について30字以内で説明せよ(句読点を含む)。

IV 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

世界には現在約200の国が存在するが、国が成立する経緯は様々である。

今日まで続く主権国家体制は、1648年のウェストファリア条約によりヨーロッパにおいて確立したと言われている。

1814年から1815年まで開催されたウィーン会議^(A)では、主権国家間の勢力の均衡を保つことによる平和の維持が目指された。

(C) 第一次世界大戦後には、ヴェルサイユ体制の下、民族自決の考えに沿って新たな国が誕生した。イギリスの支配下に

あったインドや、アイルランドでも、自治や独立を求める機運が次第に高まった。

(D) (E) アメリカ大陸においては、1776年にアメリカ合衆国が独立すると、これとフランス革命に刺激され、ラテンアメリカ (F) (G) で多くの国が独立を達成した。

しかしヨーロッパやアメリカ大陸以外の地域では、第一次世界大戦後も植民地支配や委任統治が行われるなどしており、アジアやアフリカで多くの国が独立したのは第二次世界大戦後であった。

(I) また20世紀末には、ソ連邦の解体により新たな国が成立した。
(J)

問1 下線部（A）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ドイツの諸侯にほぼ完全な主権が承認された。
- b. フランスがアルザスと西ポンメルンを獲得した。
- c. デンマークがバルト海の制海権を得た。
- d. スイスとベルギーの独立が正式に承認された。

問2 下線部（B）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ポーランド王国がロシアに併合され消滅した。
- b. 国家連合であるドイツ連邦が組織された。
- c. オランダが連邦共和国として独立した。
- d. ルクセンブルクの永世中立が承認された。

問3 下線部（C）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 同君連合国家であったオーストリア＝ハンガリー帝国が解体した。
- b. オーストリアはソヴィエト政権と戦いベラルーシとウクライナの一部を獲得した。
- c. ロカルノ条約によってチェコスロヴァキア共和国の成立が承認された。
- d. 少数民族に高い自治が認められ、ヨーロッパ諸国内の分離独立運動は沈静化した。

問4 下線部（D）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1877年にヴィクトリア女王がインド皇帝に即位して直接統治に乗り出し、統治の手段としてカースト制度を創設した。
- b. 1919年に制定されたインド統治法は、逮捕状なしの逮捕や裁判手続なしの投獄などを定め、反英運動弾圧を強化した。
- c. 1935年に制定されたインド統治法によって、各州に自治が認められたが、中央の財政・防衛・外交の権限はイギリスが維持した。
- d. 1947年にインド独立法が制定され、ヒンドゥー教を主体とするインド連邦とイスラーム教徒によるバングラデシュに分かれて独立した。

問5 下線部（E）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1801年に正式にイギリスに併合されたが、高い自治が維持され、19世紀を通じて経済的な発展を遂げた。
- b. 1916年にアイルランド独立を求めるシン＝フェイン党などの急進派が武装蜂起したが、イギリス軍によって鎮圧された。
- c. 1922年に北部のアルスターを除いてアイルランド自由国として独立すると同時に、イギリス連邦からも離脱した。
- d. 北アイルランドでは、イギリスからの独立を目指すプロテスタント勢力がカトリック勢力と対立したが、1998年に両者の間に和平が成立した。

問6 下線部（F）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1774年の大陸会議で植民地側主流派はイギリス本国に独立を求めたが認められなかった。
- b. 1775年のレキシントンとコンコードでの武力衝突を機に独立戦争が始まった。
- c. 1783年のウィーン条約でイギリスはアメリカ合衆国の独立を承認した。
- d. 1787年に制定されたアメリカ合衆国憲法は連邦主義の採用により州の自治を拡大した。

問7 下線部（G）について、以下の国①～④の独立年を年代順に古いものから正しく並べたものを1つ選べ。

- ① アルゼンチン
- ② キューバ
- ③ コロンビア（大コロンビア共和国）
- ④ ハイチ

- a. ③→②→④→①
- b. ③→④→①→②
- c. ④→②→③→①
- d. ④→①→③→②

問8 下線部（H）に関連してフランスの委任統治領となった地域を1つ選べ。

- a. イラク
- b. シリア
- c. トランスヨルダン
- d. パレスチナ

問9 下線部（I）に関連してアフリカで多くの国が独立し「アフリカの年」と呼ばれる年を1つ選べ。

- a. 1950年
- b. 1960年
- c. 1970年
- d. 1980年

問10 下線部（J）に関連する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・ザカフカースの4共和国が連合してソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連邦）を結成した。
- b. スターリンは先進資本主義国での革命（世界革命）の推進を目指し、第1次五カ年計画を実行するとともに、コミンテルンを創設した。
- c. ブレジネフによる資本主義国との平和共存政策は、東ヨーロッパの社会主義諸国における民主化運動を加速させることとなった。
- d. 独立国家共同体（C I S）は、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・バルト3国（エストニア・ラトヴィア・リトアニア）など11の共和国によって結成された。

〔以 下 余 白〕

〈R 06183418〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

世界史

(この欄には解答を書かないこと)

問 9

採点欄